公益財団法人ベネッセこども基金

アニュアルレポート 2020

報告対象期間：2020年4月～2021年3月

特集1 コロナ禍でも子ども支援の手を止めない！助成団体の活動の工夫

特集2 「院内学級プロジェクト」検証事業の成果報告

Benesse Foundation for Children
Annual Report
2020

子どもたちが
自らの可能性を広げられる
社会を目指して

私たちは、未来ある子どもたちが安心して
自らの可能性を広げられる社会を目指し、
子どもたちを取り巻く社会的な課題の解決および
多様な学びの機会の提供に取り組みます。

子どもの安心・安全を守る活動

経済的困難を抱える子どもの学び支援

病気・障がいを抱える子どもの学び支援

よりよい社会づくりにつながる学び支援

被災した子どもの学びや育ちの支援

ベネッセこども基金は、
自らが企画実施する「自主事業」と、
地域でテーマに沿った子ども支援に取り組む団体への
「助成事業」を通じて、
子どもたちを支援しています。

理事長ごあいさつ

当財団は2014年の設立以来、「子どもたちが自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指して、経済的困難や重い病気などの困難を抱える子どもの学びの支援や、子どもを取り巻く社会や学習環境の改善に取り組んでまいりました。ご支援、ご助力いただきました皆様には、深く感謝申し上げます。

2020年度は感染症の蔓延により、世界中が困難に見舞われました。社会的弱者にそのしわ寄せが行く中で、支援を必要とする子どもたちとその家族のために、多様なセクターと手を取り合いながら支援していくことの重要性を強く感じた1年となりました。

助成事業では、これまでの積み上げにより、モデル性のある団体の取り組みが地域に根付きつつある「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」「重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成」の実施に加え、7月に熊本を中心に起こった豪雨被災地域での子ども支援助成を実施しました。感染症への対策も求められる中でしたが、運用の変更により、迅速に支援を届けることができました。

当団体独自の事業においては、学びのプロジェクトの実施やコンテンツ開発、社会発信など、知見ある団体と複数年にわたって共に積み上げてきた活動が実ってきていることを実感しています。これからも団体共通の課題解決、そしてよりよい社会の実現に向けて、活動を進めてまいります。

時代の変化と課題をとらえながら、子どもを取り巻く社会課題の解決にむけて、活動を深めてまいります。今後とも皆様からのご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

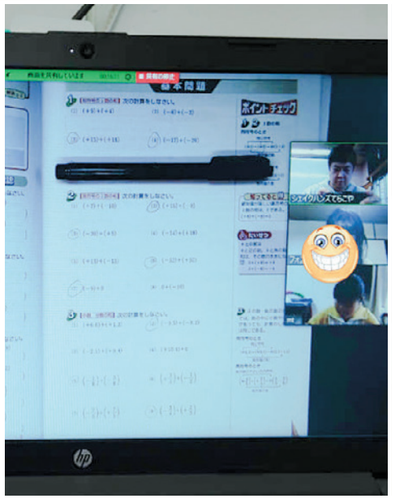
公益財団法人
ベネッセこども基金　理事長
五十嵐 隆

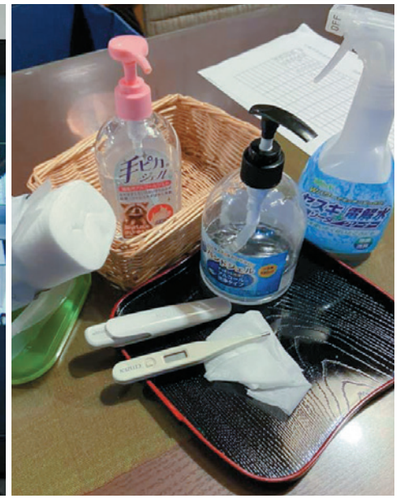
国立成育医療研究センター理事長
東京大学医学部医学科卒業。
同小児科、東京大学大学院医学系研究科
小児医学講座小児科教授などを経て現職。
日本こども環境学会会長、
ドナルド・マクドナルド・ハウス財団理事長、
中山人間科学振興財団理事、日本保育協会理事、
日本小児医学研究振興財団理事など。

特集 1

コロナ禍でも子ども支援の手を止めない！助成団体の活動の工夫

新型コロナウィルス感染症により、支援が必要な子どもたちがより厳しい状況になるなか、支援の手をとめずにサポートし続けた助成団体の活動の工夫の一部を、各団体の皆様からご紹介いただきます。





重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成団体 活動の工夫

病気を抱える子どもたちは、普段から感染症へのリスクを抱えており、通常時も支援者は病院に入る前に感染症の抗体検査を受けるなど、支援活動に十分な配慮をしています。家族でさえ病室に入ることが限られるコロナ禍においても、様々に工夫して子どもたちに寄り添う活動が行われています。

病気を抱える子どもたちのリスク増に対応して

case 01 病院への立入禁止！

対応 → 子どもを一人にしない！病院に定期的にお手紙や教材を届け続ける

長期入院治療中の子どもたちが、友達とのコミュニケーションを奪われ、学習への意欲が失われ、学びが滞ることは大きな問題です。これを解決するために、大学生たちを組織化し「チーム・グッドブラザー」として活動をしています。コロナ禍以前は、お子さんの体調のよい時に、定期的にボードゲームやクリスマス会などの交流を行っていました。病院に入ることができず、子どもたちとの関係が途絶えてしまうことを避けなければと、お手紙や手作りのワークを定期的に届けることで交流を続けました。病院のスタッフの方々にご協力いただけて、ありがたかったです。

特定非営利活動法人 未来ISSEY
代表：吉田ゆかり

次男の闘病経験を経て、香川県で同じような状況の子どもや家族の力になりたいと団体を設立。慢性疾患により長期入院や療養をしている子どもたちの学習・学び体験の場を作る活動や家族の相談事業に注力。現状を伝える講演活動や映像制作・上映も。

case 02 感染への恐怖で外出困難！

対応 → Onlineでできるとんとん相撲を開発！落ち着いたら一緒にスポーツしよう！

「チャレンジスポーツ！」では、医療的ケア児や発達の課題がある子どもなどと健常の子どもが一緒にスポーツを楽しみます。体を動かす喜びもありますが、様々な子どもたちが交流することに意義を感じています。感染が怖くてほとんど家から出られない子どもも多く、一緒に遊びやスポーツをすることが全くできなくなりました。そこで、家に居る子どもたちが自分の得意なスイッチボタンでPCを操作し、会場の子どもと紙相撲で対戦する「オンライントントン相撲」を開発しました。コロナが落ち着いて再会できたとき、すぐに仲良くできればと願っています！

特定非営利活動法人 BLACKSOX
代表：西野耕太郎

プロテニスプレイヤーとしてご活躍後指導者に。2002年より、医療的ケア児童・重度重複障がいの児童の同年代の健常児とスポーツによるコミュニケーションを目的とする「チャレンジスポーツ!」を開催。テニス教室生徒の大人もボランティアとして参加。

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成団体 活動の工夫

緊急事態宣言や休校は、経済的困難を抱える子どもたちに大きな影響をもたらしました。「給食がない」「オンライン学習が推奨されても環境がない」といった物質的な課題だけでなく、保護者との関係性の悪化や孤立など、精神的なダメージを受けた子どもも少なくありません。さらに大きくなった課題に対してすぐに対応した団体の例をご紹介します。

学習教室の現場の混乱を乗り越え、子どもたちに向き合い続ける

無料や低額の学習教室は、経費を抑えるために公的な施設を借りて行うことが多いです。コロナ禍では会場の使用に制限があり、教室を続けられない状況にありました。

case 01 学習教室会場の使用禁止！

対応 教室に来れない！別の場所を探しつつオンラインでも

すぐにeラーニング教材とオンライン学習支援ができるように準備しました。環境のないご家庭には、企業の寄付などで調達したPCを貸し出し、所属している約250人の子どものほとんどが学びを継続することができました。（濱住）普段の場所が使えず、学習教室には使用していなかったカフェの2階を、急遽勉強ができるように整えました。（松本）

case 02 勉強どころでない！お昼ご飯がない！

対応 フードパントリーやお弁当を宅配！子どもの顔を見る機会にも

学校給食がないのが心配で、学習プリントと一緒に週2回弁当宅配を行いました。配達した際にパジャマ姿のままでいる子もいて、生活の乱れがわかりました。（松本）子ども食堂などの地域団体からいただいた食材を、時間をずらして生徒に取りに来てもらいました。教室が開催できなくても週1回顔が見られホッとしました。（濱住）

case 03 直接の学習指導は欠かせない！

対応 密を避ける工夫をして開催

感染防止のため、教室の定員を半分程度にして、前半後半と時間を分けて実施しています。1回の学習時間は以前より減ってしまいましたが、eラーニングだけで学習を進めるのは難しく、教室が再開できてよかったです。（濱住）部屋を分けたり、机や椅子の配置を工夫したり、また一部の人はオンラインで参加するなどの工夫をして密を避けています。（松本）

特定非営利活動法人 ユースコミュニティー
代表：濱住邦彦

学習教室にボランティアとして参加したことをきっかけに、任意団体ユースコミュニティーを設立。2014年にNPO法人化し代表理事に就任。2016年より大田区子どもの貧困対策に関する計画検討委員としても活動。

特定非営利活動法人 シェイクハンズ
代表：松本里美

愛知県犬山市で市民活動を続け、15年ほど前から多文化共生に関わり、日本語教室、プレスクール、地域資源カフェなどの事業を実施。2020年度より農福連携の地域協働コミュニティ農園の運営を行う。

児童養護施設職員へのダメージを見逃さない

休校により、多くの児童養護施設で、日中は子どもが学校に行っている前提で調整していたスタッフの業務が困難になりました。スタッフの疲弊が見受けられ、子どもへの影響を最低限におさえる必要がありました。

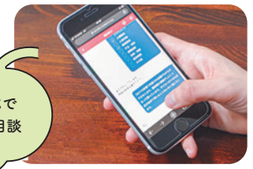
case スタッフの SOS を解消したい！

対応 相談アプリの緊急立ち上げ！

特定非営利活動法人 チャイボラ
代表：大山遥

会社員時代に、破棄される教材を児童養護施設に寄付しようとしたことをきっかけにこの世界に。社会的養護施設における人材の確保と定着を促進することで、「子ども達一人ひとりが大切に育てられる世の中」を目指してチャイボラを立ち上げる。

休校中の現場のスタッフさんは、日々対応に追われ、疲弊が見られました。困りごとを解決し、離職を防ぐ手立てがないかを検討し、年度当初には計画していなかった、「社会的養護施設職員のための相談窓口」を立ち上げました。経験豊富な元児童養護施設職員が窓口になり、弁護士・社労士・心理士・施設長などと連携し運営しています。助成事業で予定していた現場での体験会や見学会は、施設に入ることができないため、オンラインに切り替える工夫をして実施しました。



団体運営の基盤が揺らぐ局面にも、解決の道を探る

団体の多くが、支援者を増やし寄付をつのるために、集客型のシンポジウムやイベントを実施しています。2020年度は、多くが中止やオンラインなどによる実施となり、目標額の達成が厳しくなりました。

case 集客型ファンドレイズイベントができない！

対応 企業やお店に寄付箱を設置

一般社団法人 栃木県若年者支援機構
学習支援コーディネーター：吉井久乃

国際ボランティアNGO職員を経て栃木県へ。貧困家庭の子どもたちなどを対象とした学習支援プログラムや「みんなが安心できる暮らしを社会全体で支える」ことをテーマにしたネットワークの構築事業の全体コーディネートを担当。

これまでの集客型チャリティイベントが軒並み実施できなくなりました。訪問型学習支援に特化した募金箱を作り、活動の意義や必要性をお伝えする専用のリーフレットと一緒に置いていただきました。県内の方々にSNSや口コミで設置を依頼し、回収、御礼をしながら増やしていきました。

各団体が工夫して子ども支援の手を止めないことに感謝！

今回教えていただいた事例以外にも、マスクや消毒を準備して学習支援を続けたり、シンポジウムやスタッフ研修をオンラインで実施したりするなどの工夫を各団体が行っていました。ベネッセこども基金もこの状況に対応すべく、費用転用やスケジュール変更に伴う助成期間の延長を行いました。今後も情報共有や社会発信を引き続き行ってまいります。

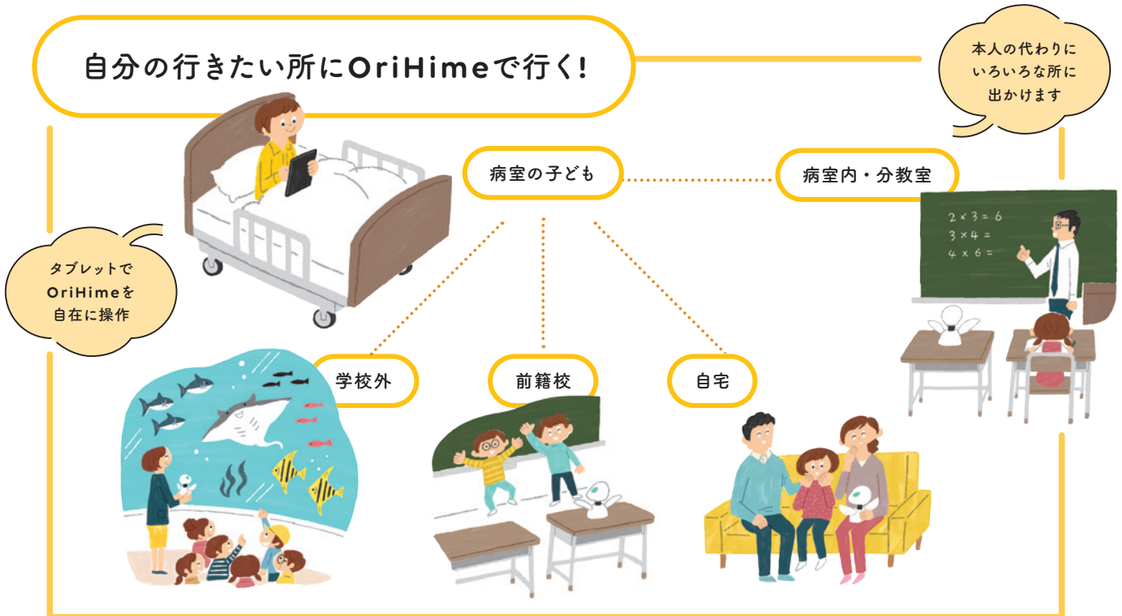
特集
2

「院内学級プロジェクト」検証事業の成果報告

2016年度から5年間実施してきた院内学級プロジェクト。病気療養中の子どもの学習に、分身ロボット「OriHime」を活用した成果が認められ東京都の特別支援学校（病弱部門）で予算化されました。ご協力いただいた先生方にお話をうかがいます。

OriHimeのしくみ

OriHimeを行きたいところに持って行き、インターネットを通じて病室のベッドサイドなどからタブレットで遠隔操作します。視界の広いカメラで周囲を自由に見渡したり、声やジェスチャーを伝えたりして、離れていてもコミュニケーションがとれます。



voice 病弱教育の新たな希望となる学習モデルの先駆けとして

都内にある大学附属病院や専門病院には、学齢期の子どもたちも多数入院しています。治療を優先するために地域の学校を離れていますが、どの子も「もっと学びたい！」「友達と関わりたい！」「外の社会を知りたい！」という気持ちを抱いています。こうした意欲に応えるため、ベネッセこども基金やオリィ研究所の社会貢献としての協力を得て、病院訪問学級の教育を担う都立特別支援学校4校（のち5校）で「院内学級の子どもたちの学び支援プロジェクト」に2016年から参画し、分身ロボットOriHimeを活用して、入院中の制約を乗り越え、希望をかなえる学習を実現してきました。

治療中でベッドを離れることができない児童や生徒に代わり、分身ロボットが入学式や卒業式の会場に「出席」して証書を受け取ることも可能となりました。また、退院後に戻る学校と交流授業を行ったり、入院中の児童や生徒同士を結んでの合同学習や遠隔社会見学を行ったりと、新たな授業の形を創り出すことができました。

この実績により、今年度から東京都教育委員会により都立病弱別支援学校全5校に分身型ロボットOriHimeが配備されることとなりました。今後はさらに実践が広がっていくでしょう。

都立光明学園は、「本校」「分教室」「訪問教室」と、病気治療中の子どもたちにさまざまな形で授業を行っています。今後も分身ロボットを活用しながら学びを広げていきます。

東京都立光明学園
田村康二朗 統括校長

院内学級プロジェクト参画校

都立北特別支援学校
（東京大学医学部附属病院内こだま分教室）

都立小平特別支援学校
（国立精神・神経医療研究センター病院内分教室）

都立光明学園
（国立成育医療研究センター内そよ風分教室など）

都立墨東特別支援学校
（国立がんセンター中央病院内いるか分教室など）

都立武蔵台学園
（府中分教室）

CLOSE UP

OriHimeの活用で子どもたちの世界が広がった授業事例

OriHimeを活用した授業を現場で数多く行なっている久保田先生に、印象深いエピソードをご紹介いただきました。

前籍校とのつながりをもち続け、理解を深め合えた!

episode 01

長期欠席中の不安感をやわらげてくれたOriHime。

院内学級に転籍していた小学4年生の児童。前籍校の教室にOriHimeを置き、入院中の病室から授業や帰りの会に参加しました。動きを伝えることのできるOriHimeで、クラスメイトと毎日バーチャルハイタッチであいさつすることを思いついたのは前籍校の担任の先生。クラスメイトとの交流をもち続け、復学後の居場所づくりにつながりました。

※前籍校：児童生徒が通っていた学校のこと。
病院内教育を受けるには、転籍（転校等）が必要になる。

episode 02

OriHimeを通じて自然とクラスに広まった思いやりの心。

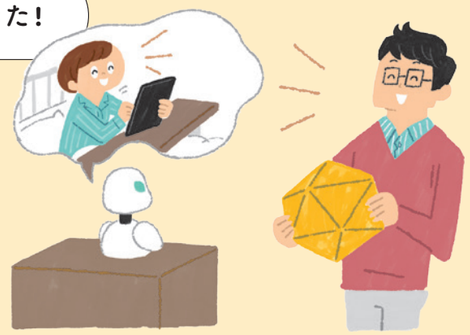
小学5年生の児童は、病室からOriHimeで前籍校の授業に参加。グループワークの内容に合わせて、音声や文字など最適な形を選びながら活動。通信のタイムラグはクラスメイトが配慮してカバーするなど、みんなが授業に参加しやすいように思いやる気持ちが自然と芽生えました。運動会などの行事でも、入院中で参加できない児童のために衣装を作るなど、互いに絆を深めることができました。

知的好奇心や社会とのつながりを大切にできた!

episode 03

子どもの興味をきっかけに、OriHimeで校外学習へ。

ある子どもから算数クイズを出されたことをきっかけに実現したバーチャル課外学習。OriHimeを持って教員が東京理科大学内の数学体験館に出向き、館内のアクティビティに子どもたちが病室から参加。小学生～高校生までの子どもたちが夢中になって楽しむ姿に、外の世界とつながる喜びや、子どものもつ知的好奇心の強さが表れていました。



voice

同年代の子どもとの交流が、心の成長に

院内学級では、同時期に同年代の子どもがいないこともあります。OriHimeがあれば前籍校のクラスメイトやほかの病院内の子どもと交流をもつことができ、心の成長に寄与できると感じています。もちろんそれぞれ性格や状況にちがいがあるので、OriHimeの使い方や頻度などは子どもをよく見て、前籍校の教員などともよくコミュニケーションをとって検討することが大切ですね。

東京都立墨東特別支援学校
病弱教育部門
つばさ病院訪問学級
久保田智子先生

interview

本事業をきっかけに東京都でも分身ロボット導入へ

私は16歳のとき結核で隔離病棟に入院しており、身体的制限から学校に行けず友達にも会えない孤独を経験しました。その経験をもとに2012年に「孤独の解消」を目的にCEOの吉藤とCTOの椎葉とともにオリィ研究所を設立し今に至ります。本事業の構想を皆様と議論したときには、めざしている未来が一歩近づいたように感じ、感動したのを覚えています。

OriHimeの説明のために何度も教室に通ったり、インターネット回線のない病棟の中で活用する方法を先生方と一緒に考えたりしながら、プロジェクトは一歩一歩進んできました。その結果、日常の授業だけでなくOriHimeで社会科見学に行ったり、文化体験をしたりと多様な方法で子どもたちに活用されるようになりました。

そしてついに、ベネッセこども基金の皆様のご尽力、先生方や子どもたちの応援を得て、分身ロボットによる遠隔教育が都主導で公教育に導入されました。東京都以外での活用も進むなど、本事業の影響は全国まで波及していると感じています。ベネッセこども基金の皆様、そして学校関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

株式会社オリィ研究所
共同創設者 兼
取締役 COO 結城明姫

interview

教員とともに子どもの成長を促せる存在に

OriHime導入当初は学校にも病院にも今のような通信環境がなく、それを整えることからスタートしました。資金面や病院側の理解など簡単な道のりではありませんでしたが、ずっと病室で過ごしている子どもたちの世界が広がる希望になると信じて進めてきました。院内学級での学びの幅が広がったことも成果ですが、自宅にOriHimeを置いて家族と団らんしたり、OriHimeの操作を通して発達が促されたりと、当初の想定外でも子どもたちの心のハードルを下げてくれる事例がたくさん見られました。分身ロボットならではのちょうどよい存在感がコミュニケーションをスムーズにしてくれるようです。大きな可能性を秘めているこのOriHimeを、現場の教員がもっと気軽に使えるようになり、活用事例をどんどんストックしていけたら良いなと思います。

東京都立小平
特別支援学校
武蔵分教室 主幹教諭
田添敦孝 先生

これからの取り組み：GIGAスクール×ICTでの学び支援

医療の進歩で救命率が上がった一方で、長期入院中の子どもの学習空白問題が浮き彫りになりました。特に高校生世代は、教育を受ける権利が十分に保障されていないのが現状です。ベネッセこども基金では今後もNPO・学校・行政・企業などと連携し、病気療養中の子どもたちがICTを活用して学校や地域の支援団体とつながることで学習空白や将来への不安を解消することをめざしていきます。

- ICTやロボットを活用した主体的な学び
- 高校生の学習保障

活動概況

自主事業

2020年度活動状況と2021年度の方向性

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのための支援プログラムの無償提供を財団設立当初から実施しています。2020年度は、学校現場からのネットリテラシー教育へのニーズが高かったことが特徴的でした。感染症対策のため、体験型出張授業は実施を見送りました。

教育プログラムの開発・普及

防災

保育園・幼稚園向け

防災教育紙芝居
「じしんのときのおやくそく」
全国の保育園・幼稚園等配布数＊
のべ約 11,000 園

防犯

小学校
低学年向け

子どもの安全・安心ハンドブックと
安全教室実施パッケージ
全国の小学校等配布数＊
のべ約 29 万部

ネット

小学校
中・高学年向け

初めてのスマホ安心ガイドブックと
安全教室実施パッケージ
全国の小学校等配布数＊
のべ約 35 万部

＊配布数はすべて 2021 年 3 月時点

2021年度は 学校現場以外の方々も含め、より多くの方に活用いただけるよう、さらなる普及の拡大を目指します。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

助成事業を実施する中で見えてきた、団体共通課題への解決のモデル作りや、社会課題の発信を、知見あるセクターと協業して取り組んでいます。

学びの質向上

KIDSDOOR NPO法人キッズドア
連携
公益財団法人 ベネッセこども基金

経済的に困難な状況にある子どもの学習支援領域において、先進的な団体「NPO法人キッズドア」と連携して、学習支援団体共通の課題である「学ぶ意欲」と「言葉の力」の向上をねらいとした中学生向け教材を制作。2021年度は全国の学習支援団体の現場に無償提供予定。

課題の社会発信

連携して発信!

外国ルーツの子どもの学び
社会的養護の子どもの学び
連携
公益財団法人 ベネッセこども基金

課題発信
ノウハウ共有
理解者の拡大

「社会的養護の子どもの状況と学び」「外国ルーツの子どもの学び」など、支援団体や関係団体と連携して課題の現状を広く訴える活動を実施。オンラインでのシンポジウム（ベネッセこども基金MeetUp）により、様々な立場の方との活発な意見交換も実施できた。

2021年度は 引き続き、学びの質向上、課題の社会発信に取り組みつつ、2021年度は団体の事業評価についての研究会を発足させ、団体共通課題への支援をより充実させていきます。

病気・障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、有効な学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

院内学級での学び支援プロジェクト

5年間の成果が認められて、東京都での行政予算化が決定

⇒詳細は P7 ～の特集参照

東京都内の特別支援学校5校と連携し、分身ロボットOriHimeを学びに活用。病児の学びや体験の機会や同年代の子どもとのつながりを増やすことができた。

発達障がいのある子どもと保護者の学び支援

子ども向け支援

東京芸術大学COI拠点、NPO法人ADDSと連携し、「音と光の動物園」を横浜・渋谷で実施。

保護者向け支援

療育の専門家であるNPO法人ACOとともに、保護者向けプログラムを開催。

2021年度は 院内学級プロジェクトは、成果と共に見えてきた課題を踏まえ、より汎用的な学びモデルの開発を目指します。発達障がいのある子どもと保護者の学び支援は、ニーズと当財団の役割を見極め、地域の実態に合った活動に整理していきます。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

先進的な取り組みを行っている団体と共に、子どもたちが、地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一員としての役割を果たすことができる力を育む活動をしています。

親子でチャレンジ 国際理解！ ちびっこおえかきコンテスト

2020年度結果
応募数：3,278作品
参加国：150園

過去最高

就学前の子どもたちが保護者と発展途上国の問題について学ぶプログラム。認定NPO法人グッドネーバーズ・ジャパンと共催。

国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE（アイムポッシブル）』日本版

2021年5月
「東京2020パラリンピックのレガシー」がテーマの新教材をWEB公開

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会／日本財団パラリンピックサポートセンターと連携して教材を制作。

高校生英語ディベート世界大会（WSDC）

初のオンライン開催で、
世界73カ国が参加。
日本代表は3勝3敗の好成績!

日本代表5名中、3名がスピーカー賞を受賞!

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟（HEnDA）の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2021年度は 2021年度はよりよい社会づくりにつながる新たなテーマの企画実施を様々なセクターと共に進めていきます。

活動概況

助成事業

2020年度活動状況

「重い病気を抱える子どもの学び支援」「経済的困難を抱える子どもの学び支援」「被災した子どもの学びや育ちの支援」の3テーマについて、各地域で子ども支援に取り組む団体への助成支援を実施しています。

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

病院、学校、支援団体とともに学びや体験のモデルづくりへ

重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動に対して、過去6年間でのべ43団体を支援してきました。

支援事業例

- ●ICTを活用し学校と病院をつなぐ学習支援事業
- ●病気を抱える子どもと保護者を対象にした親子イベント事業
- ●ボランティア育成事業
- ●ファンドレイズなど支援者を増やす活動事業　など

領域全体の現状と課題

難病の子ども	医療的ケア児	病気を理由に長期欠席した小中学生
約15万人※1	約2万人※2	約4.6万人※3

医療の進歩とともに助かる命が増えた一方で、長期的な治療や医療的なケアが必要な子どもの学びや体験の機会が十分ではありません。成長に応じた学びや遊び、音楽や美術にふれること、家族以外の人との交流も大切です。困難を抱える子どもの学びの必要性を多くの人々に知っていただくこと、また困難さの解決に向けた問題提起やユニークな視点を含んだ支援策、同じ課題に取り組む人たちが参考にできるモデルとなることが期待できる活動などを全国に普及させていくことの2点が重要です。

※1 出典：「第1回小児慢性特定疾病対策等の基本方針検討会」（厚生労働省）　※2 出典：「第17回医療計画の見直し等に関する検討会」（厚生労働省）
※3 出典：「令和元年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」（文部科学省）

患者である前に高校生　～就学時に長期入院が必要になった高校生の一例～

病気発症～入院生活開始

突然病気を発症した子どもはショックを受けたまま辛い治療を開始。慣れない入院生活によるストレスを抱えたり、辛い治療による見た目の変化など、心身ともに辛い状況になります。

長期の入院生活

義務教育課程ではない高校生向けの院内学級はほぼないため、休学・退学による学習空白が発生。高校は出席日数や単位履修で進級や卒業が認められるため、留年を余儀なくされる場合もあります。希望する進路を諦めるケースもあり、将来に対する不安が大きくなります。

退院～復学

退院＝病気の完治というわけではありません。退院後も通院しながら自宅療養を続け、もとの生活に戻していく場合が多いです。体力を回復させることや入院中の学習の遅れを取り戻すことだけでなく、学校や友人など周りの理解や協力を得るには、想像を超える困難さがあります。

子ども支援の展望

病気を抱える子どもを長期間サポートしていくためには、医療分野だけでなく多様なセクターと連携し、包括的に支援体制を構築することが不可欠です。また、情報のハブとなるコーディネーターの存在も重要になります。まだまだ担い手が少ない領域であるため、闘病の時期や期間に左右されず、学びや体験が保証され、将来への希望を失うことがないように、様々な支援方法や担い手が増えることが重要です。

医療×福祉×教育の連携を中心に
多様な学びや体験など「量」と「質」の支援の輪を広げる

2020年度活動団体と活動トピックス

食育

特定非営利活動法人 i-care kids 京都　所在地：京都府

京都市内に小規模保育園キコレを開園。食事の制約が多い医療的ケア児に食育プログラムを展開。季節の食材を五感で楽しむ体験を通して、子どもたちが食を楽しめるようになった。食の工夫はご家庭にもお伝えし、ホームページでも発信。

調査・啓発

一般社団法人 日本育療学会　所在地：京都府

病気療養中の子どもが、病室や自宅から学校とICTでつながり学べる環境を作るため、携帯型Wi-Fiルーターを希望する33校に提供し、活用支援を実施。事業終了後も校費で使い切り型SIMカードを購入し、継続的に学ぶシステムができた。

学習支援

特定非営利活動法人 未来 ISSEY　所在地：香川県

入院中の子どもに学習支援やイベントを届ける学生ボランティア（グッドブラザー）120名を研修にて育成。コロナ禍でも工夫を重ね、安定的に病棟派遣ができる体制ができた。病弱児のきょうだい問題をテーマにした広報用ムービーも作成。

病気への理解支援

一般社団法人 在宅療養ネットワーク　所在地：香川県

医療的ケアが必要な子どもたちがいる学校や保育園で、その子ども一人ひとりにあわせた症状をわかりやすく説明する紙芝居を作成。病気のことを、本人も友達も理解を促す参加型読み聞かせや保育士向け研修を実施。

スポーツ・文化体験

特定非営利活動法人 BLACKSOX　所在地：神奈川県

医療的ケア児や重度重複障がい児向けにチャレンジスポーツのイベントを開催。健常児や社会人とともに様々なスポーツに挑戦した。コロナ禍でもオンラインで楽しめる活動を継続。

調査・啓発

認定特定非営利活動法人 ポケットサポート　所在地：岡山県

岡山県内の学校現場における病気を抱える子どもの支援課題に関するアンケート調査を実施。273校より回答いただき、課題が明確になるとともに、地域の学校との連携が強化された。調査結果を報告するシンポジウムを開催（346名参加）

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

経済的困難がもたらす あらゆる格差に根本的な解決を

経済的な困難を抱える多様な子どもの課題に対して、支援団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点で課題に取り組む団体の活動に対して、最大3カ年の助成を実施しています。複数年助成を開始した2年間で、13団体を支援しました。

支援事業例

- ●外国ルーツの子どもや社会的養護施設の子どもの学習支援
- ●支援教室に来ることができない子どもの訪問型学習支援
- ●自治体や学校、地域などとの協働事業　など

領域全体の現状と課題

子どもたちは、教育や体験の機会に乏しく、地域や社会から孤立しがちで、様々な面で不利な状況に置かれています。子どもの困難さも多様化、複雑化していること、また地域ごとに課題の特徴や深刻さが異なることから、地域全体での支援が求められます。

子どもの貧困	外国ルーツの	社会的養護児童
約7人に1人※1	子ども約12万人※2	約4万5千人※3

※1 出典：「国民生活基礎調査」（厚生労働省）
※2 出典：「外国人の子供の就学状況等調査」（文部科学省）
※3 出典：「社会的養護の現状について（参考資料）」（厚生労働省）

経済的困難を抱える子どもの一例

外国ルーツの子どもの一例

外国ルーツを持つ子どもが直面する問題の一つは「日本語の習得」です。日本語が十分ではないため、学習内容を理解できず学習意欲を失ったり、友達とコミュニケーションをとることができず、不登校になるケースも見られます。また、ダブルリミテッド（二か国語以上話すことができるが、どの言語も適切なレベルに達していない状態）が原因で、学力不振や、親子の会話が深められず家庭での関係性を構築できないなどの支障が発生します。

社会的養護の子どもの一例

経済的困難を背景とした虐待などにより社会的養護の対象となった子どもは、適切な養育が受けられなかったことにより生じる発達のゆがみや心の傷を持つことで、自己肯定感が低いケースがあります。
自己肯定感を回復させるには特定の一貫した大人による継続的な個別支援が必要ですが、職員不足により十分な支援ができていないケースも見られます。

子ども支援の展望

地域や領域ごとに多様化・複雑化している経済的困難を抱える子ども達をサポートしていくためには、各ステークホルダーが連携し、包括的に支援体制を構築することが不可欠です。学びや体験の機会提供はもちろん必要ですが、一人ひとりの子どもたちの状況を理解し寄り添って、地域で最適な支援方法を探っていく段階にあるといえます。
学校の先生やスクールソーシャルワーカー、行政の各部担当者、ケースワーカー・相談員などが、地域の学習教室や居場所支援、子ども食堂等とつながり、子どもの課題解決が全国の地域で展開され、制度化されることが期待されます。

各地域でのネットワークによる解決モデル化
↓
支援の仕組みの全国への波及 制度化へ
↓
様々な困難を抱えていても学びや体験が保証され
将来の選択ができる社会へ＝社会全体を変える

複雑化する子ども支援の現場が直面している課題

- ●成果を示すエビデンスの提示が困難
- ●学校、自治体、外部機関との連携・協働の困難
- ●スタッフの安定的な雇用の困難など

子どもの学習支援団体の多くは、予算や場所、担い手育成など活動を継続するためのリソースに苦慮されている状況です。2019年の当財団の調査結果からも、多岐にわたる困難が浮き彫りになりました。支援団体の事業基盤強化を中長期的に支援していくことの重要性を再認識しています。

STEP 01　団体基盤強化力
- ・ステークホルダーとの関係性構築
- ・ファンドレイズ
- ・人材育成
- ・広報
- ・会計

↓

STEP 02　事業の継続力
- ・自主財源の拡充
- ・他団体、企業、行政との協働

↓

STEP 03　社会への発信力
事業成果発信／政策提言

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成 ： 2020年度活動団体と活動トピックス

活動2年目団体

子どもの居場所

特定非営利活動法人 アスイク 所在地：宮城県

2019年度より始めた、仙台市内3か所のフリースペースの開催を週2に増やし実績を積み上げた。年間延べ利用者数は前年度の3倍近くとなり、対象者の居場所として機能し、継続的な関係構築につながった。2021年度から市の予算化決定。

外国ルーツの子ども

認定特定非営利活動法人 茨城 NPO センター・コモンズ 所在地：茨城県

就学準備ができた状態で小学校に入学、転入するためのプレスクール、プレクラスを開催しながら、意義を自治体に提案し、2022年から常総市での実施を目指す。子ども課や保健センターでのパンフ配布や研修などの母語教育啓発も実施。

外国ルーツの子ども

特定非営利活動法人 シェイクハンズ 所在地：愛知県

学習支援教室を実施しながら、生きる力をつけるための子ども農園を実施。地域の人との巻き込み、農福連携のコミュニティ農園に発展させた、また子どもネットワーク会議を運営し、支援者、理解者を増やすシンポジウムも開催

支援基盤整備

特定非営利活動法人 寺子屋方丈舎 所在地：福島県

居場所づくりスタッフのスキルアップを週1のon−line研修にて実施。現場のプログラム運営やプログラムづくりのノウハウが蓄積・共有された。またケース会議後の振り返りなどを丁寧に行い、ソーシャルワークスキルもアップできた。

訪問支援

一般社団法人 栃木県若年者支援機構 所在地：栃木県

学習教室に来ることができない子どもたちにアウトリーチを行い、訪問型学習を実施。コロナ禍に対応しながら、on−lineでのボランティアの募集、研修を行いながら、企業寄附を引き出す活動などの資金調達にも力を入れる。

学びの意欲向上

特定非営利活動法人 HUGforALL 所在地：東京都

児童養護施設でくらす子どもたちの「生きる力」につながるプログラムをコロナ禍に対応する形でオンラインで提供。継続してプログラムの見直しも行った。また、ボランティア募集につながる団体サイト改訂などの基盤整備も実施。

支援基盤整備

認定特定非営利活動法人 浜松 NPO ネットワークセンター 所在地：静岡県

学習教室に来ることができない子どもたちへの訪問型学習を実施しながら、実務者ネットワーク構築のための調査活動や子ども支援者研修会を行う。・生徒：9名（6家族）・講師：4名　のべ324回（461.25h）実施

活動1年目団体

学習支援

特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク北芝 所在地：大阪府

大学生や元教員のボランティアたちが先生となり、公営団地の集会所等で児童生徒の学習を手助けする寺子屋事業を開始。行政・学校・保護者・地域の団体・有識者で構成した運営委員会を設置し、地域で子どもを支援する事業も開始。

学びの意欲向上

特定非営利活動法人 サンカクシャ 所在地：東京都

学びの意欲が低い子ども若者を支援するためのモデル開発事業を開始。英会話や動画編集など「部活動」という枠組みで、仲間と一緒に楽しく体験や経験をすることで、子ども若者たちのやる気を引き出す。実施回数111回、延べ154名参加。

支援基盤整備

特定非営利活動法人 チャイボラ 所在地：東京都

児童養護施設など社会的養護の施設情報や社会的養護に関する幅広い情報をとりまとめ発信しているサイト「チャボナビ」の改定や、養成校への出張授業を実施。サイト訪問者数1万人以上、サイト会員登録者387名。授業参加学生831人。

支援基盤整備

特定非営利活動法人 TEDIC 所在地：宮城県

過去の支援記録や活動記録などを棚卸し、定性的な価値・バリューの可視化を実施。インタビュー逐語録、分析レポート、TEDIC10年間の活動年表を作成。定性的価値の必要性を再確認し、自治体の委託事業年次報告書にも掲載し報告。

外国ルーツの子ども

認定特定非営利活動法人 ふじみの国際交流センター 所在地：埼玉県

来日直後の外国人親子をサポートするための教材制作や指導者育成研修会を実施。日本の学校に初めて通う子どもが困らないために一番に覚えるべき言葉を掲載するなど実践的な子ども向けオリジナル教材3つが完成。

学習支援

特定非営利活動法人 ユースコミュニティー 所在地：東京都

ファンドレイジング確立のため基盤整備を実施。大学生ボランティア5名と共にSNSを活用した広報活動や、地域学習会をオンラインで開催。結果、サイトアクセス803PV、オンライン学習会参加39名、マンスリー新規会員7名を獲得。

各団体の詳しい施策内容と結果については、ペネッセこども基金サイトに掲載しています。ぜひご覧ください。

被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成

2020年度７月に熊本県を中心に発生した豪雨被害に対して緊急助成を実施しました。日常生活を取り戻す時間の中で、生活上の困難だけでなく、被災や生活の変化によるストレスの発散、安心できる居場所の確保、失われた学びの機会や環境の提供など、多岐に渡る子ども支援への助成を行いました。感染症対策への配慮も同時に求められる困難さもあり、助成期間を延長しました。

- 助成対象地域：熊本県、鹿児島県、福岡県、大分県、長野県、岐阜県、山形県
- 募集期間：2020年7月13日～9月30日の期間において、公募と随時審査（計7回実施）
- 助成対象期間：2020年7月4日～2021年1月31日（新型コロナ感染症影響による延長2021年3月31日まで）
- 応募数：11事業　採択数：8事業
- 助成総額：3,355,000円

被災地の子どもの課題

- 被災による生活上の困難
- 被災によるストレス
- 安心できる居場所の喪失
- 学習環境の喪失
- 忙しい保護者に代わる託児や見守りの必要性

＋ 感染症対策

- 支援者は県内に限る
- イベント実施の困難さ

災害に加えコロナ禍による困難も

解決策：助成事業

心のケア

日常生活を奪われ、ストレスをためがちな子どもたちの発散やいやしの場をつくる。

居場所

生活再建のために大人が奔走する中、安心して子どもを預けられる場を提供する。

運動機会支援

避難生活などで運動量が減ることで、ストレスをためたり体力が低下したりすることを防ぐための運動機会の提供。

学習支援

災害にあっても、学びを途切れさせないための学習支援。今年はオンラインなど、感染対策を考慮。

災害で生活が変わった子供を支援する会
活動地域：熊本県八代市坂元町近郊
物資の支援や、工作などのアクティビティを通して、子どもたちが安心して過ごせる場を提供。
（居場所）

特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場連絡会
活動地域：熊本県人吉市・八代市及び隣接する町村
子ども向け舞台の実施を通して、子どもの不安を取り除き、表現する機会を提供。
（心のケア）

水俣芦北広域地域団体 やまびこ
活動地域：熊本県葦北郡
復興の途上で疲弊している親と子どもたちのための、ハロウィン祭りの実施。
（心のケア）

一般社団法人 FUN & FIT
活動地域：熊本県八代市
地域や通学路が被災した小学校の、放課後の見守りや、運動機会の提供。
（運動機会支援・居場所）

特定非営利活動法人 みさと
活動地域：熊本県葦北郡
ワークショップや図書館づくりを通した、災害後の第3の居場所づくり。
（居場所）

特定非営利活動法人 ITAL
活動地域：熊本県人吉市
子どもたちのダンスのワークショップや発表イベントの実施。
（心のケア）

特定非営利活動法人 いるか
活動地域：熊本県人吉市など
居場所としての機能も兼ねた、講師と学習の場をオンラインでつないだ学習支援サポート。
（学習支援・居場所）

公益財団法人 日本 YMCA 同盟
活動地域：熊本県球磨郡多良木町
避難生活をプラスに変える、避難所での小中高校生を対象としたプログラミング体験の実施。
（学習支援・居場所）

※採択決定順

2020年度募集および決定助成団体

重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

- 募集期間：2020年7月20日～2020年9月25日
- 応募数：26件　・採択事業数：7件
- 助成総額：計 11,000,000円
- 助成対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日

募集対象：重い病気により長期入院や長期療養をしている子どもの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動。

団体名	申請事業名	所在地	助成金額
特定非営利活動法人 i-care kids 京都	医療的ケア児や重い障害を抱える子どもたちの“食”の世界を広げるプロジェクト	京都府	¥600,000
特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	重い病気を抱える子どものための「おしごとカフェ」の開催	兵庫県	¥1,900,000
公益社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を	医療的ケア児と家族の為のホームスクールプロジェクト！	東京都	¥1,500,000
認定特定非営利活動法人 ポケットサポート	ＧＩＧＡスクール構想と組み合わせた病気を抱える児童生徒の地域連携支援	岡山県	¥1,800,000
特定非営利活動法人 未来ISSEY	香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業	香川県	¥1,900,000
勇者の会	小児ガン患者に対する学習支援および心の発育のサポート	北海道	¥1,400,000
Wonder Art Production	全国と世界の病院をつなぎ子どもたちの創造力と表現力を豊かに育む学びと交流支援事業	宮城県	¥1,900,000

経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

- 募集期間：2020年11月20日～2021年1月8日
- 応募数：90件　・採択事業数：7件
- 助成総額：計 19,935,080円（初年度）
- 助成対象期間：2021年4月1日～2024年3月31日（最大３年間）

募集対象：経済的な理由により学習に困難を抱える子どもたちの意欲を高め、学びに取り組む手助けとなる団体の活動

団体名	申請事業名	所在地	助成金額
特定非営利活動法人 CLACK	経済的に困難を抱える高校生のプログラミング学習支援	大阪府	¥2,190,000
特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち	矯正教育現場等でのアーティストによるワークショップを通じた経済的困難を抱える非行少年等の自立支援活動	東京都	¥1,904,500
特定非営利活動法人 在日ブラジル人を支援する会（サビジャ）	在日ブラジル人児童への発達・学習サポート事業	東京都	¥1,638,000
認定特定非営利活動法人 地球学校	外国につながる子どもたちの日本語学習を支える教室のオンライン化事業	神奈川県	¥3,123,000
特定非営利活動法人 Next Generation	ひとり親家庭をはじめとした貧困家庭の児童生徒への個別学習支援事業と組織力向上事業	群馬県	¥3,999,980
認定特定非営利活動法人 フードバンク北九州ライフアゲイン	学習支援を充実させ、子ども食堂をプラットフォームとした子どもの貧困の連鎖を断ち切る地域モデル構築事業	福岡県	¥3,213,600
一般社団法人 ユガラボ	経済的困難を抱えた子どもたちの安心できる居場所と継続的な学びを多地域で支えるプラットフォーム創出事業	神奈川県	¥3,866,000

2020年度　決算報告

貸借対照表の要旨（2021年3月31日現在）

		科目	金額
資産の部	1	流動資産	64,566,727
		現金預金	64,274,698
		貯蔵品	292,029
	2	固定資産	337,925,840
		特定資産（事業積立資産）	337,925,840
	資産の部合計		402,492,567

		科目	金額
負債の部	1	流動負債	13,461,637
		未払金	13,372,566
		預り金	89,071
	負債の部合計		13,461,637
正味財産の部	1	指定正味財産 （うち特定資産への充当額）	337,925,840 （337,925,840）
	2	一般正味財産	51,105,090
	正味財産の部合計		389,030,930
	負債及び正味財産合計		402,492,567

正味財産増減計算書の要旨（2020年4月1日～2021年3月31日）

		科目	当年度	前年度	増減
Ⅰ.一般正味財産増減の部	1.経常増減の部	（1）経常収益	148,951,029	162,243,357	△ 13,292,328
		受取寄付金	146,422,089	161,344,751	△ 14,922,662
		受取寄付金	5,547,094	5,757,440	△ 210,346
		受取寄付金振替額	140,874,995	155,587,311	△ 14,712,316
		雑収益	2,528,940	898,606	1,630,334
		（2）経常費用	149,528,015	164,557,126	△ 15,029,111
		事業費	128,951,029	142,243,357	△ 13,292,328
		支払助成金	54,643,009	48,985,518	5,657,491
		給料手当	24,350,822	23,205,520	1,145,302
		委託費	12,076,283	13,589,420	△ 1,513,137
		印刷製本費	8,767,392	13,793,366	△ 5,025,974
		賃借料	7,415,100	7,343,432	71,668
		その他事業費（通信運搬費、制作費など）	21,698,423	35,326,101	△ 13,627,678
		管理費	20,576,986	22,313,769	△ 1,736,783
		給料手当	5,786,795	5,801,379	△ 14,584
		賃借料	1,585,257	1,481,639	103,618
		制作費	2,880,826	3,896,486	△ 1,015,660
		委託費	6,001,565	5,742,174	259,391
		法定福利費	1,006,369	950,093	56,276
		その他管理費（印刷製本費、報酬など）	3,316,174	4,441,998	△ 1,125,824
		評価損益等調整前当期経常増減額	△ 576,986	△ 2,313,769	1,736,783
		評価損益等計	0	0	0
		当期経常増減額	△ 576,986	△ 2,313,769	1,736,783
	2.経常外増減の部	（1）経常外収益	0	0	0
		（2）経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		税引前当期一般正味財産増減額	△ 576,986	△ 2,313,769	1,736,783
		当期一般正味財産増減額	△ 576,986	△ 2,313,769	1,736,783
		一般正味財産期首残高	51,682,076	53,995,845	△ 2,313,769
		一般正味財産期末残高	51,105,090	51,682,076	△ 576,986
Ⅱ.指定正味財産増減の部		受取寄付金	150,000,000	150,000,000	0
		一般正味財産への振替額	△ 140,874,995	△ 155,587,311	14,712,316
		当期指定正味財産増減額	9,125,005	△ 5,587,311	14,712,316
		指定正味財産期首残高	328,800,835	334,388,146	△ 5,587,311
		指定正味財産期末残高	337,925,840	328,800,835	9,125,005
Ⅲ.正味財産期末残高			389,030,930	380,482,911	8,548,019

財団概要

名称	公益財団法人 ベネッセこども基金
所在地	〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
設立年月日	2014年（平成26年）10月31日 ※公益財団法人移行日：2015年（平成27年）4月1日

役員

代表理事・理事長	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
代表理事・副理事長	福原 賢一	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
理事	耳塚 寛明	青山学院大学　コミュニティ人間科学部 学部特任教授
理事	小見山 智恵子	東京大学医学部附属病院 副院長　看護部長
理事	青柳 光昌	一般財団法人　社会変革推進財団 代表理事専務
理事	マセソン 美季	公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター 推進戦略部プロジェクトマネージャー
理事	岡田 晴奈	株式会社ベネッセホールディングス グループ執行役員
監事	尾尻 哲洋	税理士

評議員

評議員	髙野 一彦	関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授
評議員	宮城 治男	特定非営利活動法人エティック 創業者
評議員	西村 洋	株式会社ベネッセホールディングス グループ執行役員　社長室本部長

※2021年7月現在

2021年7月
発行：公益財団法人 ベネッセこども基金
写真　表紙：木村文平
イラスト：seesaw.
編集協力：竹内彩子
アートディレクション：細山田光宣（株式会社 細山田デザイン事務所）
デザイン：鎌内文（株式会社 細山田デザイン事務所）
印刷・製本：株式会社 協同プレス

公益財団法人ベネッセこども基金WEBサイト

https://benesse-kodomokikin.or.jp/
活動を紹介するサイトです。
助成の応募情報などもこちらからご覧ください。

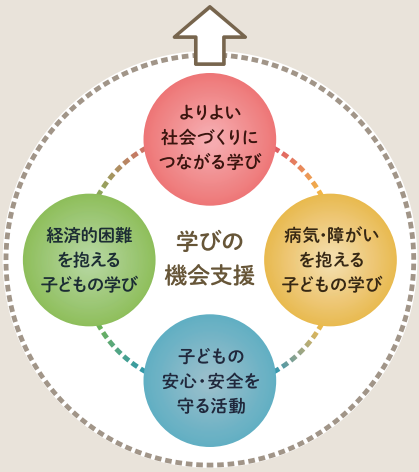
ベネッセこども基金公式Facebook

https://www.facebook.com/
benessekodomokikin2014/

ベネッセこども基金公式Youtubeチャンネル

https://www.youtube.com/channel/
UChU6G-_PuSGA12YHoEBjv-w

子どもが自らの可能性を
広げられる社会



公益財団法人 ベネッセこども基金